



画像解析による「牛枝肉の品質評価システム」を開発

画像解析による牛枝肉の品質評価システムを開発。大学の肉質評価理論をアルゴリズムとして確立し枝肉解析ソフトウェア(Beef Analyzer)としても製品化されている。また、北海道発のオリジナルスタンダードとしても評価を受けている。

本業の動向について

計測機器・科学機器の販売、分析機器の販売、環境関連機器の販売、試験・検査機器の販売、計測制御システムの設計・製作、試験・検査システムの設計・製作。北海道内の経済状況の影響を受け、先行き不透明ではあるが、技術商社としての強みを生かした営業活動により、概ね順調に推移している。

公設研究機関との連携事業について

連携先公設研究機関の名称

地方独立行政法人北海道立総合研究機構
産業技術研究本部工業試験場

所在地

北海道札幌市北区北19条西11丁目

連携内容

連携により、高精細枝肉横断面画像を撮影可能な枝肉撮影装置の開発と、大学のシーズである肉質評価理論をベースに、ロース芯抽出・筋肉/脂肪の分離・脂肪交雑等の画像特徴量算出、などを可能にする枝肉解析専用ソフトウェアの開発を実現した。

連携した動機やきっかけ

過去に技術指導や共同開発研究の実績があり、本件の参画に打診をいただいたことと、弊社の自社製品開発ニーズが一致した。

連携の効果

社内設備では不可能であった光学的基礎技術の開発・検証が工業試験場の設備・知見により迅速に進捗した。

連携して最も効果のあったこと

大学のシーズ(肉質評価理論)をアルゴリズムとして確立し、枝肉解析ソフトウェアとして製品化できた。これは北海道発のオリジナルスタンダードとして評価されている。

連携して最も困難だったこと

特に無いが、強いて言えば日程調整か?

連携するメリット・デメリットについて

メリットとしては自社設備とノウハウでは成し得ない基礎研究部分を担当してもらえること。対外的PR効果が大きいこと。デメリットとしては特になし。

連携に際しての注意、アドバイスなど

- ・開発・研究の工程とゴールをしっかりと自社で定義する。
- ・公設試験研究機関との連絡を密にし、情報の共有・更新を怠らない。
- ・コスト意識を堅持し、コスト的に見合わない研究開発プロセスは回避する。
- ・分からないことは何でも尋ねる。

公設研究機関との連携で行政に望む支援

連携や共同研究において企業側で従事する人員の人員費を手当てするような助成・支援メニューを充実してほしい。中小企業では研究・開発担当を専任とすることは経営上難しく、この人員費を支援してくれる助成メニュー、プログラムは少ない。

会社概要

設立:昭和33年4月

資本金:3,000万円

従業員数:70名

URL: <http://www.hayasaka-rikoh.co.jp>